

〈3〉 EU における脱ロシア産ガスの現状と 米 EU の激しい貿易摩擦 —EU はアメリカに「バズーカ砲」を打つのか

ジャーナリスト 今井 佐緒里

ウクライナ戦争が始まって4年目を迎えた。

欧州連合(EU)の閣僚理事会は2026年1月26日、ロシア産のガス輸入を2027年11月までにすべて禁止する最終的な承認、規則を正式に採択した。既に12月17日に欧州議会において圧倒的多数で可決しているため、法律となることが確定した。「REPowerEU(リパワーEU)規則」と呼ばれている。

ロシアへのエネルギー依存を終わらせるための計画「リパワーEU」が発表されたのは、侵略が始まって3ヶ月経った2022年5月のことだった。2030年の全廃を目標にしていたが、3年も早く大きく前倒しとなった。

この記事は、2022年5月号No.199に掲載された拙著「ロシア産ガス輸入をゼロにする。代替ガスをどこに求めるか—EUの団結とエネルギー共通政策」の続編である。

第1章 露産ガス輸入全廃を目指す

露産ガス禁止のスケジュールは以下のとおりである。

- 2026年
 - ・スポットガスは、官報に掲載されて法律発効後、6週間後に禁止
 - ・4月25日 短期契約のLNG輸入の禁止

- ・6月17日 短期契約のパイプラインのガス輸入禁止

● 2027年

- ・1月1日 長期契約のLNG輸入禁止
- ・9月30日 長期契約のパイプラインのガス輸入禁止
- ・11月1日 最終的にすべてのガス輸入禁止
(契約とは2025年6月17日前に締結されたものが対象)

※ちなみに石油は2027年末までに段階的廃止の検討中、石炭は既に廃止されている。

9月30日から11月1日まで時間に幅があるのは、冬の暖房シーズンを前に、ガス貯蔵施設をロシア以外の供給で満たすのに難航している国があった場合を考慮してのことである。

戦争が始まる前の2021年は、年間1550億 m^3 のロシアのガス(パイプラインとLNG)を輸入していた(ちなみに日本のガス輸入総量は約900億 m^3)。

たった5年で、こんなに大量のロシア産ガス輸入をゼロにするとは、恐るべき力である。政治と意志の力でここまで変えられるのだという思いが半分、27カ国が結集している組織だから、27カ国の知性が集まる精鋭組織だからできるのだという思いが半分で、大変複雑な気持ちである。

現在の輸入状況

今回の決定は「立法」という形を取った。これなら特定多数決で決められるからだ。制裁では全加盟国の一致が必要になってしまい、ハンガリー（とスロバキア）が反対する可能性が高く、事実上の拒否権となってしまうからだ。実際、この規則（EUの法律）を決定する際、両国は反対票を投じ、ブルガリアは棄権した。

◎EUではどのくらいのガスを必要としているのか

2021年から2025年にかけてのEUのガス需要は、年間約3350億m³だった。内訳は産業部門が約38%、電力・熱供給部門が約22%、残りの約40%の大部分は住宅・サービス部門で、主に建物の暖房に使用されている。EUの世帯の約30%がガス暖房を使っている。

◎ロシアのガスは、どのくらいの割合を占めるのか

戦争発生前、ロシアは欧州のガス総輸入量の40%以上を占めていた。この割合は2023年に15%まで低下したが、2024年には反発し19%に達し、2025

年には12%である。ここまで減っても昨年はクレムリンに150億ユーロ以上の収入をもたらした。

◎パイプラインからLNGへ

戦争前の2021年、ロシアからEUへパイプライン経由で輸入されたガス量は1370億m³だった（LNGが約180億m³）。2024年には77%減の316億m³までに減少した。失われた分を埋め合わせるの、主に北海油田とアルジェリアからのパイプライン輸入と、アメリカからのLNGである。

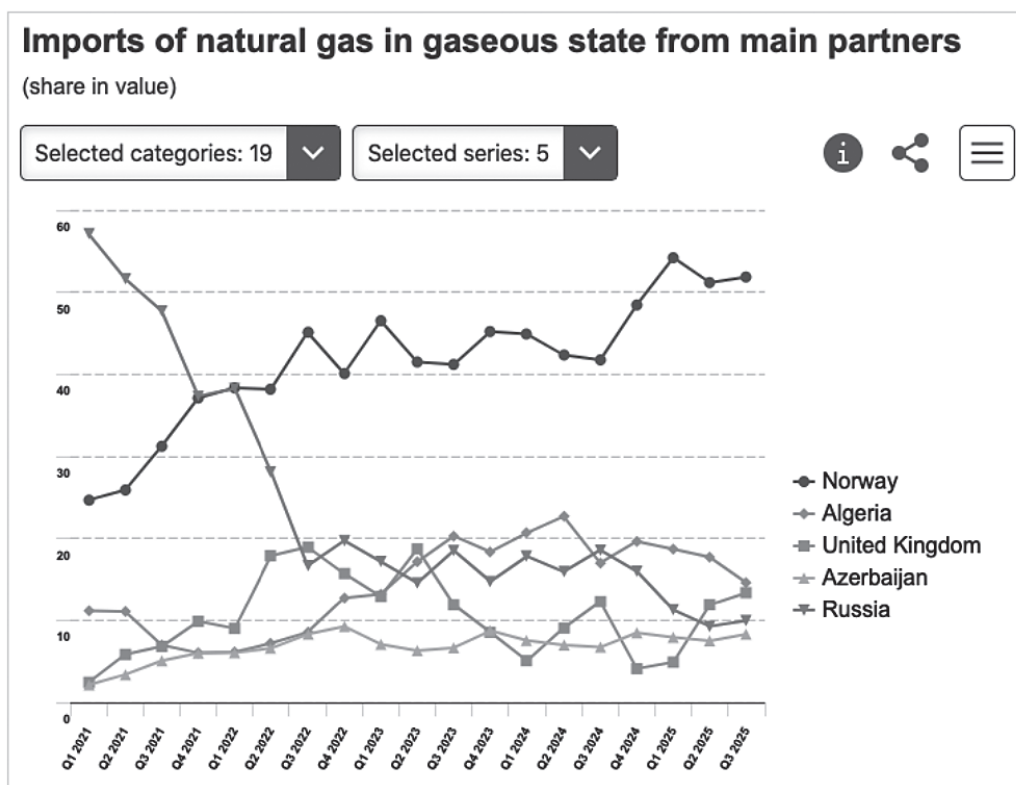
LNGの輸入量はぐんぐん増えていき、2025年には1400億m³を超えた。

EUのLNG輸入能力は2023-2024年に700億m³増加し、2025-2030年にはさらに追加で600-1000億m³の稼働開始が見込まれている。

◎どこの国から輸入しているのか

ユーロスタットの最新の統計（原稿執筆時）である2025年第3四半期によると、以下のとおりである。

ガス状天然ガス（パイプライン）

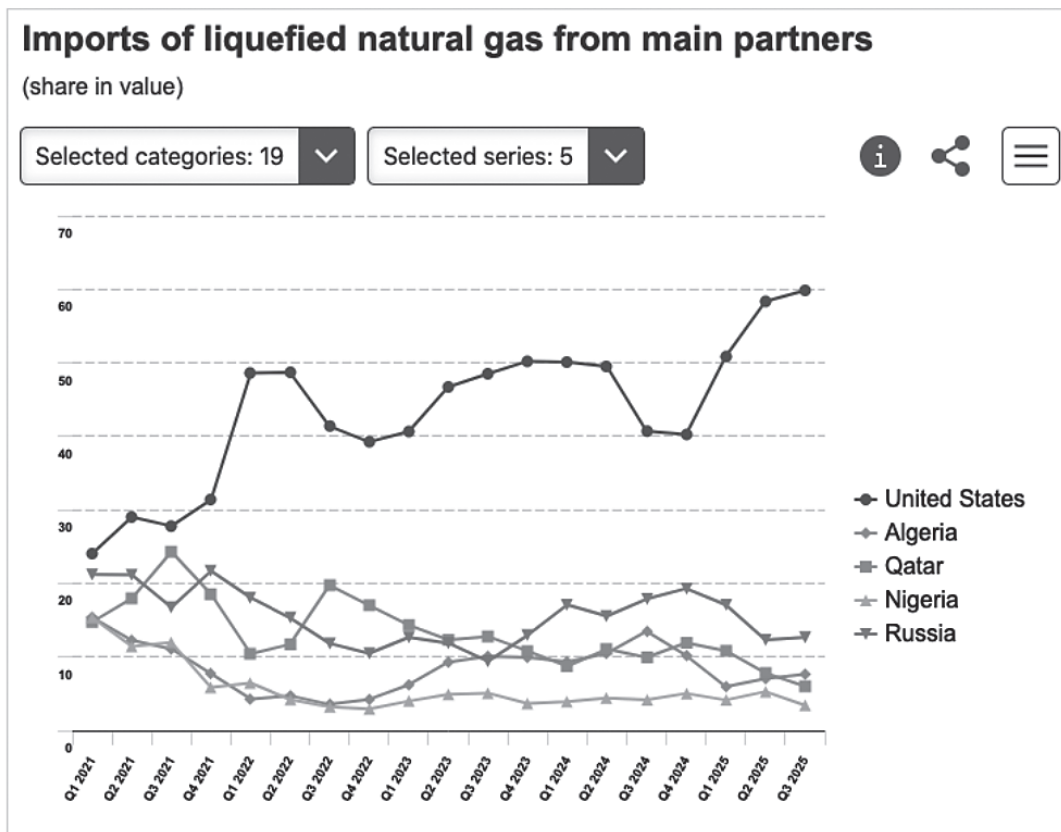


出典： https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=EU_imports_of_energy_products_-_latest_developments#:~:text=Norway%2C%20already%20the%20EU's%20main,significant%20decrease%20in%20its%20share.

最大の供給国はノルウェーである。シェアは51.8%であった。次いでアルジェリア（14.6%）、イギリス（13.4%）、ロシア（10%）、アゼルバイジャン（8.3%）、その他（1.9%）となった。

2024年第3四半期と比較すると、ノルウェーのシェアは10.1ポイント増加した。一方、ロシアのシェアは8.6ポイント減少した。ノルウェーもイギリスも、北海油田の豊かなガスエネルギーの恩恵を受けている。

液化天然ガス（LNG）



出典：https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=EU_imports_of_energy_products_-_latest_developments#:~:text=Norway%2C%20already%20the%20EU's%20main,significant%20decrease%20in%20its%20share.

最大の供給国は米国（59.9%）である。次いでロシア（12.7%）、アルジェリア（7.7%）、カタール（6.0%）、ナイジェリア（3.4%）、トリニダード・トバゴ（2.7%）、ペルー（2.1%）、その他（5.6%）となった。

2024年第3四半期と比較すると、米国のシェアは19.2ポイント増加した。一方、ロシア（-5.2ポイント）とアルジェリア（-5.8ポイント）のシェアは同期間において減少した。

2021年初頭にEUのLNG輸入量の約24%を占めていた米国は、2025年第3四半期までにシェアを約6割に増加させ、第一位の供給国としての地位をますます強化している。一方でロシアのシェアは、2021

年第1四半期の約21%から2025年第3四半期には約13%にまで減少した。しかしロシアは、第一位のアメリカとの差は広がる一方ではあるものの、EUにとって依然として第二位のLNG供給国である。

◎概況

- パイプラインガス輸入に占めるロシアの割合は、特に2024年から25年の落ち込みが激しい。44%も減少して、年間180億m³にまで落ち込んだ。原因はウクライナ経由のパイプライン「ブラトストヴォ（Bratstvo、兄弟愛）」が2024年末に契約を更新しなかったためである。このパイプの中は、今は空っぽである。
- 現在、EUにパイプラインで流れているルートは